

2026年1月30日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証プライム市場・名証プレミア市場

奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト (2026年3月期第3四半期 連結決算)

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)の2026年3月期第3四半期(2025年10-12月、以下「当四半期」)連結決算概要をお知らせします。

当四半期の収益合計は5,518億円(前四半期比7%増、前年同期比10%増)、当期純利益は916億円(同1%減、10%減)、ROEは10.3%でした。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「当四半期も、これまでの取組みが着実に成果をあげ、堅調な業績トレンドを継続することができました。ROEは10.3%となり、7四半期連続で目標レンジ(8~10%+)を達成しました。主要4部門の税前利益は2007年4-6月期以来18年ぶりの高水準となり、2030年に向けた経営ビジョン『Reaching for Sustainable Growth』実現への確かな手ごたえを感じています。

ウェルス・マネジメント部門では、包括的な資産管理サービスが着実に成果を上げ、ストック収入およびフロー収入等が過去最高を更新しました。ストック資産の純増額は5,000億円を超え、ストック収入費用カバー率は71%に達しています。インベストメント・マネジメント部門では、運用資産残高が大幅に増加し、過去最高の134.7兆円となりました。マッコーリー・グループの米国資産運用会社の買収が完了し、グローバルな運用プラットフォームの強化を通じた今後の成長基盤を整えています。ホールセール部門では、グローバル・マーケットがエクイティ・ビジネスを中心に好調に推移し、インベストメント・バンкиングも日本をはじめ各地域で収益を拡大するなど、共に過去最高の業績を記録しています。バンкиング部門では、ローン残高や投信受託残高が順調に増加し、収益基盤に一層の強化が図られています。

これらの成果は一時的なマーケット要因によるものではなく、ビジネスモデルの変革によって実現した『構造的な進化』の証です。当社は安定的に稼ぐ力を高め、それを基盤とした次の成長フェーズに入っていると考えています。今後もお客様をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待にお応えし、持続的な企業価値の向上を目指して取り組んでまいります」

決算ハイライト

全社

- 税前利益は1,352億円(前四半期比1%減)、当期純利益は916億円(同1%減)、EPSは30.19円でした。ROEは10.3%と、7四半期連続で8~10%+のROE目標を達成しました。
- 主要4部門の税前利益は1,429億円(同8%増)と、2007年4-6月期以来、18年ぶりの高水準となりました。
- 主要4部門以外はデジタル・アセット関連事業で市況悪化の影響を受け損失を計上しました。

| | 当四半期 | 前四半期比 | 前年同期比 |
|-------------------|---------|-------|-------|
| 収益合計 (金融費用控除後) | 5,518億円 | +7% | +10% |
| 税前利益(損失) | 1,352億円 | -1% | -2% |
| 当期純利益(損失) | 916億円 | -1% | -10% |

主要4部門

- ウェルス・マネジメント部門は、2020年3月期に包括的な資産管理サービスを本格展開して以降、ストック収入・フロー収入等は過去最高を更新し、ストック資産の純増額は5,000億円超の水準となりました。前四半期比で約30%の増益を達成し、税前利益率は40%を上回る高水準となりました。
- インベストメント・マネジメント部門は、マッコーリー・グループのパブリック・アセットマネジメント事業の買収を完了し、運用資産残高は134.7兆円へ大幅に増加しました。事業収益は部門設立以降で最高となりましたが投資損益は減収し、買収に伴う一時費用の計上に伴い減益となりました。
- ホールセール部門は、グローバル・マーケットで、エクイティが前四半期に続き過去最高収益を更新しました。インベストメント・バンキングは、全地域で增收となりました。日本のECM案件の回復等もあり、過去最高収益を計上しました。
- バンキング部門は、ローン実行が順調に推移しました。投資信託は新規設定の取り込みやマーケット要因から拡大し、堅調に推移しました。

| | 収益合計(金融費用控除後) | | | 税前利益(損失) | | |
|-------------------|---------------|-------|-------|----------|-------|-------|
| | 当四半期 | 前四半期比 | 前年同期比 | 当四半期 | 前四半期比 | 前年同期比 |
| ウェルス・マネジメント部門 | 1,325億円 | +14% | +19% | 585億円 | +29% | +31% |
| インベストメント・マネジメント部門 | 609億円 | 0% | +33% | 179億円 | -42% | -5% |
| ホールセール部門 | 3,139億円 | +12% | +8% | 623億円 | +17% | 0% |
| バンキング部門 | 137億円 | +7% | +12% | 42億円 | +31% | -10% |
| 合計 | 5,210億円 | +11% | +13% | 1,429億円 | +8% | +9% |

【ご参考】

[決算関連情報\(決算短信・説明資料\)](#)

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2026年1月30日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2026年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々の状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

<お問合せ先>グループ広報部 大津、山下、江本、増岡、竹内、渡辺、山本、長谷部 TEL:03-3278-0591